

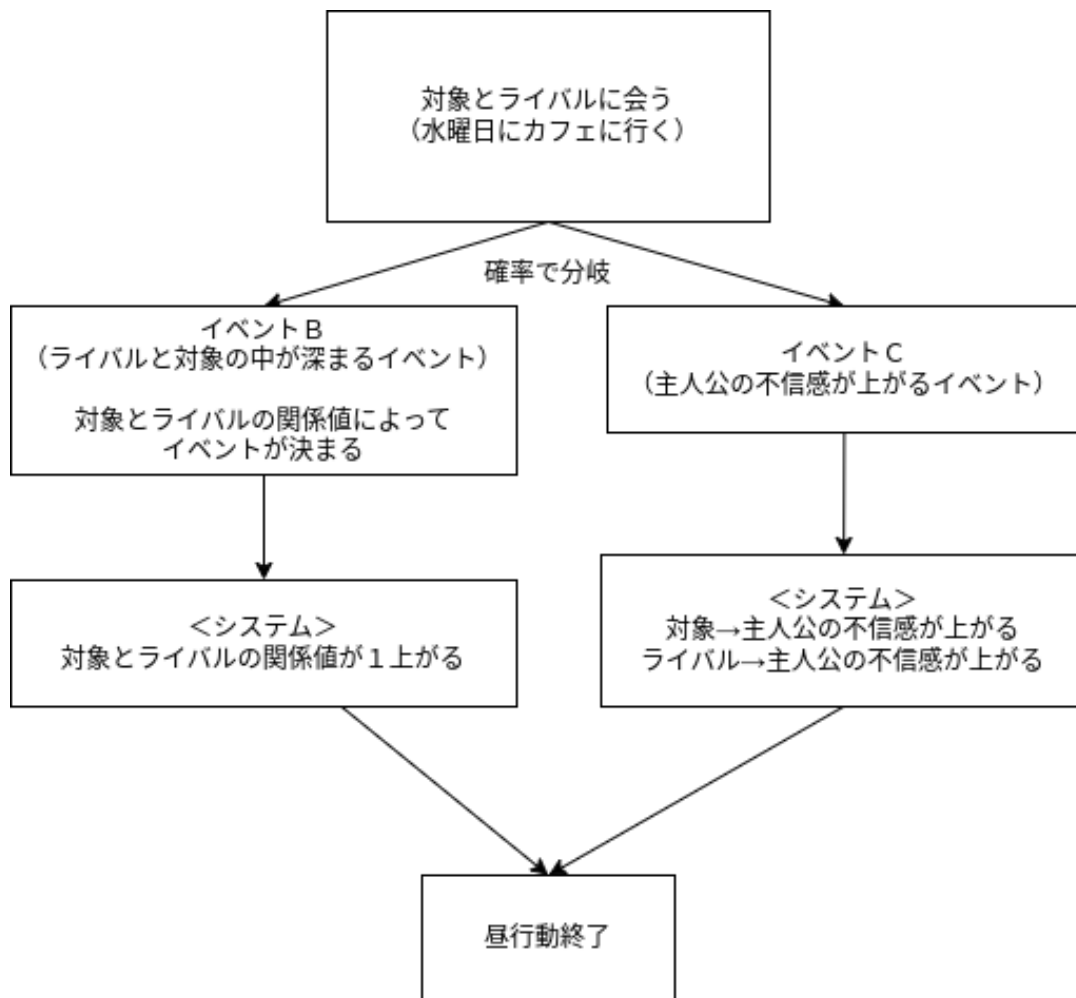
水曜日にカフェに行くと発生するイベント

ライバル3（温水明里）と対象（薄隅頼人）と一緒にいるときに主人公が出会う

（以下、ライバル3：ぬ、対象：う、主人公：い）

初回はイベントAが発生する

2回目以降はイベントBかイベントCのどちらかが発生する



イベントA：（主人公がライバルを認識するイベント）

い：ああ、今日も私の薄隅さんはかわいい。

一生懸命に縁の方からテーブル拭いていて、真面目ですてきだわ。

ぬ：頼人くん、ごめん。それ終わったら三番テーブルも拭くのお願い。

い：・・・だれ？あの女

う：はい。明里さん。って、そんなに一気に運ぼうとしないでくださいよ。

俺が持ちますから。

ぬ：えっ、ありがとう。やさしいね、頼人くんは。

う：ありがとうございます。そう言ってもらえて嬉しいです。

い：は？なにあのビッチ。私の薄隅さんになれなれしくしないでよ。

薄隅さんが嫌がっているのわからないの？

いちごが温水明理を認識した。

イベント B：(ライバルと対象の仲が深まるイベント)

イベント B は発生するごとに仲が深まり、関係度が 1 上がる

①関係度が 1 のイベント

お客：ねえ、お姉さん。連絡先教えてよ。

ぬ：すみません。業務外のことですので・・・

お客：ねえってば！

温水がお客さんに腕を掴まれた。

う：どうかなさいましたか。これ以上は、警察呼ばせていただきます。

お客：・・・もういい。

う：明里さん？大丈夫ですか。

ぬ：ごめん、頼人くん。ありがとう。

う：僕のとには気にしないでください。

あのお客さんは僕が対応しますから、明里さんはしばらく休んでてください。

ぬ：うん。ありがとう。

温水と薄隅の仲が深まった。

②関係値2のイベント

ぬ：ねえ、頼人。今度、勉強教えてくれない？

このままだと、留年するんだけど。

う：無理ですよ、明里さん。

明里さん、院生でしょ。それにコースが違うじゃないですか。

ぬ：えー、頼人しか頼れる相手いないんだけど・・・

いいの？私が留年しても！

う：仕方ないですね。Line でわからないとこ添付してくればそのたびに返しますから。

ぬ：ほんと？嬉しい。頼人大好き。ありがとね。

温水と薄隅の仲が深まった。

③関係値3のイベント

う：明里さん。この前の飲み会はありがとうございました。

ぬ：うん。私の方こそゴメンね。無理やり頼人のこと二次会やら三次会やらに連れ回しちやって。

う：いいや、楽しかったですよ。

ぬ：そう？頼人、めっちゃカラオケいくの嫌がってたじゃん。

う：それは・・・そうですけど。

ぬ：音痴なんですよ。このバイト終わったら、一緒にカラオケで練習しに行こ。

温水と頼人野中が深まった。

温水と薄隅の仲が深まった。

④関係値4のイベント

バッドエンド

ぬ：・・・

う：どうしたの？明里さん。

ぬ：・・・あ、あのね。頼人。

このあと、バイト終わり会えないかな？

う：もちろんいいですけど、体調大丈夫ですか。裏に行きましょうか。

ぬ：うん、大丈夫。

い：なに？あの異様な雰囲気。バイト終わりでもついて行くわ。

カフェカンパネラ営業終了後

う：ほんと、大丈夫？明里さん。

温水が薄隅の手を握った。

ぬ：ごめん。頼人。好きなの君のことが・・・

う：・・・

ぬ：前にカフェで助けてくれたときから、ずっと好きなの・・・

う：・・・

ぬ：びっくりだよ。いきなりでゴメンね。バイト、これから気まずいよね。

あー、もう。忘れて。ごめん。

う：忘れませんよ。僕からも言わせてください。好きです。明里さん。

い：だめ、だめ、そんな結末認めない！！

いちごが二人の前に飛び出してきた。

い：私のものにならない薄隅さんなんていない！

こうして、いちごは通報された。

End：あなたは他人の物

↑

引くほどテンポが良いのが面白いのでは

イベント C : (不信感が上がるイベント)

イベント C は①～⑤がランダムで発生する。

①

ぬ：いらっしゃいませ。ご注文はお決まりですか？

い：・・・ちっ

ガタっ、いちごがグラスをわざとらしく倒した

ぬ：あっ、お客様大丈夫でしょうか？

い：大丈夫なわけじゃない。はやく、タオルかなにか持ってきなさいよ。

ぬ：すみません・・・

温水→主人公の不信感が上がった

②

”イチゴちゃん・・・イチゴちゃん・・・”

いちごの携帯から薄隅の声の着信が鳴っている。

い：こんな時間に電話なんて、だれ？空気読めないのね。

いちごが荷物を置いてカフェの外に出た。

ぬ：あの声って、もしかして頼人の声？

あの子の携帯から・・・もしかして・・・

頼人の声を録音して切り取って着信にしているの・・・？

う：お疲れ様です。休憩いただきました。

ぬ：あっ・・・おかえり。実はね・・・

温水→主人公の不信感が上がった

対象→主人公の不信感が上がった

③

い：すみません。店員さん。すみません。

ぬ：はい。どうかされましたか。

い：は？特に要はありません。

ぬ：あ、ああ。そうでしょうか。

い：すみません。店員さん。

う：はい。どうかされましたか。

い：あの、お水いただけますか。

う：ああ、かしこまりました。

5分後

い：すみません。店員さん。

う：はい。どうされましたか。

い：あの、またお水いただけませんか。

う：ああ、いいですよ。

ぬ：ちょっと、あのお客さん一口飲むたびによんできてない？

う：そうですか。気のせいだと思いますよ。

ぬ：そう、だといいいけど。

5分後

い：すみません。お水いただけませんか。

う：はい、かしこまりました。

ぬ：・・・やっぱり、おかしいよね。

温水→主人公の不信感が上がった

④

い：・・・

いちごが薄隅を凝視している

ぬ：あのお客さん。来てからもう3時間くらい経ってるけど・・・

う：どうかしました？明里さん

ぬ：ねえ、あの子ずっと君のことばっか見てるけどなにかした？

う：・・・？特に何もしていませんけど。

ぬ：・・・そう？

2時間後

い：・・・

いちごが薄隅を凝視している

ぬ：あの子5時間くらいいるけど。おかしくない？ずっと君のこと見ているし。

う：そうですか？はや上がりなのでお先失礼します。

ぬ：あ、ああ。お疲れ様。

い：お会計早くして。

ぬ：ああ、すみません。

温水→主人公の不信感が上がった

⑤

カフェカンパネラ閉店後

ぬ：お疲れ様。今日も、疲れたね。

う：お疲れ様です。夜も、遅いですし送っていきますよ。

ぬ：えっ、ほんと？嬉しい。

5分後

ぬ：・・・なんか、後ろから視線か何か感じない？

う：そうです？なんにも感じませんけど。

ぬ：誰かにつけられてる感じがするの。

う：明里さん、きれいなんですから。ストーカーとか気をつけてくださいよ。

ぬ：うん。そうだけど・・・

温水が周りを見渡している。

電柱のそばにいるいちごと目があつた。

ぬ：・・・！やばい、逃げて！

う：どうしたんですか？明里さん。

ぬ：いいから、逃げて！

温水→主人公の不信感が上がった

対象→主人公の不信感が上がった